

第7回品川区長期基本計画策定委員会
議 事 概 要

日時：平成20年9月12日 14:00～15:30

場所：品川区役所 議会棟6階 第一委員会室

1. 開会

2. 委員長挨拶

- ・本日ご議論いただいた結果を踏まえ、素案をパブリックコメントにかけることになる。
- ・表現方法等に関する細かい点については、来週、学識者と事務局にて検討することとしている。

3. 長期基本計画素案（たたき台）についての意見交換

■事務局（資料3、4に基づき説明）

■委員長

- ・計画の修正案に対するご意見をいただきたい。

■委員

- ・子育て環境の充実に向けた取り組みとして親育ちの支援が挙げられているが、加えて、保育士と親との交流が有効であると思う。計画のなかに、「保育士と親との集団交流」を盛り込んでいただきたい。
- ・p.95 に地域ネットワーク支援の状況が図示されたため、地域福祉に関する協働のイメージが理解できた。ただし、居住地域における個人・事業所ボランティアやNPO法人の活動実態は依然として分からず、また、町会と交流する機会も少ない状況にある。そのため、ボランティア団体の活動等を地域で共有し理解しあえることができれば良いと思う。
- ・協働の受け皿としての町会・自治会について、修正案では区と町会・自治会がどのような関係にあるのか明確になった。今後、荏原第三地区連合町会で現在策定中の町会パンフレットでは、基本計画の内容と整合性を保ちとりまとめていきたいと思う。

■委員

- ・修正前の素案と内容はそれほど変わっていないような印象を受けた。
- ・p.99 に「次代につなぐ環境都市」とあるが、そのような環境都市に向けて何をすべきか掘り下げて考える必要がある。例えば、「みどり率」はまちづくりの1つの中心になる指標であると思うが、これは樹木を増やすこととニュアンスが異なる。一定規模の開発に植樹を義務づける等、樹木の増加に向けた明確な取り組みを盛り込む必要があるのではないか。

- ・ p.109 には再開発事業における環境負荷の低減に関する記述が盛り込まれたが、どのような対策を行った結果、どのような効果が得られたのか記載すべきであると思う。
- ・ 最近ではゲリラ豪雨が問題となっており、その原因として超高層ビル群の存在が指摘されている。これは都市の再開発によるものでもあり、環境と都市開発の関係について、同時に両面から検討を行う必要がある。
- ・ p.125 の公営住宅の整備について、「収入が少なくとも入居可能な区営住宅の整備」という文言を盛り込むことが重要である。
- ・ p.85 の個別施策③について、高齢者優良賃貸住宅制度の活用ではなく、直接的な住宅供給を明記すべきであると思う。
- ・ p.135 には防災まちづくり事業として補助 29 号線の整備が挙げられているが、同事業は住民の合意が得られていないため、計画から削除する必要があると思う。
- ・ 都市防災の対策事業として、道路整備だけではなく、2015 年までの住宅耐震化に関する目標を盛り込むことが重要である。現案の防災まちづくり事業は、道路整備になっているように感じる。
- ・ 高齢者福祉に関する点は、区民の要求が最も高い点であるものの、現案ではこの点が強調されていない。高齢者福祉に関する点は、計画の冒頭に据えるべきである。
- ・ 高齢者が増加している一方で、介護サービスが受けにくい状況を踏まえると、区が整備主体となり、特別養護老人ホーム等の設置目標数を掲げ、積極的に取り組む必要があると思う。

■委員

- ・ これだけ文章量が多い場合、区民が最後まで目を通すことはないため、第 1 章や第 2 章のあたりで計画の要旨を把握できることが重要である。
- ・ p. 1 に近隣セキュリティシステムや小中一貫教育が例示として挙げられているが、前者は全ての区民に認知されているわけではないため注釈が必要である。
- ・ p. 6 に計画の 5 年後の計画見直しに関する記述があるが、5 年という期間が長いかわりに議論が分かれると思う。
- ・ p.18 の 2 行目では、若者の社会的自立支援の対策として、品川区ではスポーツに力を入れているように読むことができるため、青少年の心身サポート等を先に挙げた方が良いのではないかと。
- ・ p.19 の健康・福祉の項目には、予防を重視するという視点があると良いのではないかと。
- ・ p.20 の冒頭に「高齢者や障害者を特別視するのではなく」とあるが、逆に表現が強く差別的な印象を受けるため、修正した方が良いと思う。
- ・ p.22 に地球環境への負荷の低減の方策として、リサイクル等の表現が盛り込まれると良い。
- ・ p.27 に「新しい地域活動の胎動」とあるが、「胎動」という表現は分かりにくいので、

別の表現を用いた方が良いと思う。

- ・ p.28 に「情報誌（コミュニティペーパー）」とあるが、コミュニティペーパーという例示は不要ではないか。
- ・ 計画文案に注釈をつけるのであれば、まずは計画の冒頭に、「協働」という表現の注釈をつける必要があると思う。
- ・ p.29 の「ファブレス企業」という表現には注釈が必要である。
- ・ p.52 の「これから親となる中学・高校・大学生世代」という表現には若干違和感もあるため、もう少し適切な表現に修正した方が良いと思う。
- ・ p.53 の4行目に「地域の子育て力」とあるが分かりにくいため、「経験豊かな年輩の力」といった表現の方が良いと思う。
- ・ p.56 に「小中一貫教育と市民科など」とあるが、両者は別物であるため、分けて記載した方が良いと思う。

■事務局

- ・ 5年に1度、品川区では「緑被率」に関する調査を実施しており、様々な取り組みの結果等を受け、同比率は年々向上している。
- ・ 近年、東京都では、池や河川等の水面や公園のグランド等を加味し、広い意味での緑地環境を表す指標として「みどり率」が用いられている。
- ・ 従来、ヒートアイランドとゲリラ豪雨の関係は指摘されていたが、超高層ビルや再開発との因果関係から、ゲリラ豪雨について認識することはなかった。なお、最近の全国的なゲリラ豪雨は必ずしも都市部でおきているわけではなく、広域的な気象現象によるものであると理解している。
- ・ 品川区内の区営住宅数は近隣他区と比べ、遜色はない。また、23区の市街地の連続性を踏まえると、今後の区営住宅の整備は、近隣地域における供給量とのバランスをとり進めるべきものと考えている。
- ・ 品川区の防災における最大の問題は道路問題である。かつては農道や林道であった道路が拡幅されることなく市街化が進んだため、密集市街地では未整備の道路が最大の問題となっている。なかでも補助29号線は、その地域を南北に縦断する道路であるため、防災対策上の根幹であると考えている。
- ・ 地球環境問題では、社会の継続的な発展を担保しつつ取り組むことが国際的な常識であり、品川区でも同様の観点から取り組んでいきたい。

■委員

- ・ パブリックコメントが、単に区民の意見を聞くだけで終わらないようにするべきである。そのため、パブリックコメントの期間を長くとることに加え、これを機に計画を読んでもらうための積極的なPRが必要であると思う。
- ・ p.3では、基本構想の基本理念から棚卸しして、計画の全体像が示されたため、基本構想とのつながりが分かりやすくなったと思う。

- ・この計画を読み、今後、まちづくりに参加しようと思わせるような勢いのある表現、内容が必要ではないか。

■委員長

- ・パブリックコメントでは、多くの区民に意見を求めること、また、そのための努力が非常に重要である。

■委員

- ・これまで委員会でお願ひした点について、修正 No.80、81 のように反映していただいているが、p.52には依然として「発達障害」という表現がみあたらない。
- ・p.91 の発達障害等に関する施策について、障害者自立支援法ではなく、発達障害者支援法に基づく施策として対応・充実していただきたい。
- ・p.64 では、「ニートやひきこもり」に対する対応が削除されているが、発達障害が原因でニートやひきこもりになる人が多いため、この点は再考していただきたい。
- ・以前、項目ごとに優先順位をつけるという説明があった。長期基本計画では協働が重要な柱になっていることから、区政運営の基本姿勢が示されている第4章を、第2章や第3章として位置づけた方が、計画の特色が明確になるのではないか。

■委員

- ・p.80 の個別施策③の「ヤングシニア」という表現について、注釈がつけられ分かりやすくはなった。しかし、雇用延長等を受け65歳になるまで地域デビューができない状況、また、当該層以外は排除されているような印象を与えるため、「ヤング」という表現は用いない方がよいと思う。
- ・p.80 には「しながわシニアネット」の活動内容について記載があるが、パソコン講習だけを実施しているわけではないため、例示として、パソコン講習に加え、「健康と趣味の講座、サークル活動等」という表現を盛り込んでいただきたい。また、活動地区について「荏原地区など」と記載されているが、できれば「他地区」での展開と記載していただきたい。

■委員

- ・計画のなかには行政の誘導を感じる点、一方、総花的な点がある。長期計画であるとしても、気になる点がいくつかあった。
- ・p.53 の子育て支援のなかでも、個別施策②は最も重要な点である。しかし、中小企業では子育て支援を積極的に取り組むことは難しい状況もあり、そこに対して、区が依頼していくという強い姿勢を計画に明示する必要があると思う。
- ・「高齢者クラブ」については、その呼称を含めて検討するということを計画に記載しても良いのではないか。
- ・一般論として緑地と地球温暖化対策を結びつけることも理解できるが、品川区の限られた面積のなかで、緑地と地球温暖化対策を一体的に捉えることは論理的ではない。そのため、緑の整備は区民の憩いの場の整備として行い、地球温暖化対策については、

区民が参加し地方圏の自然林を人工林に変える取り組み等を行った方が良いと思う。

- ・高齢者の増加を受け、セーフティネットとしての住宅政策は品川区にとっても重要となってきた。ただし、現在、区内には約3万戸の空き家があり、また、劣悪な居住環境にも居住ニーズがあることを考えると、今後、住宅の建て替えが進まなくなり、街の活力が失われていく恐れもある。そのようななかで、さらに公的住宅を増やすことについては、将来動向を見据え議論を行う必要がある。

■委員

- ・p.54 の子育て支援について、多様な保育サービスの展開も重要であるが、申し込んでも入れない状況を考えると、まずはこの問題に対応することが先決であり、そのためには認可保育園の整備が重要である。
- ・小中一貫教育について、今後の推進を謳う前にまずは効果検証が必要である。小中一貫校では、校庭が狭く運動会が開催しにくいという問題も顕在化してきており、これらの問題も含め検証することが必要である。
- ・緑被率の向上はヒートアイランド現象への対策にも効果的なため、樹木の増加に向け取り組みを行うことは重要である。
- ・ゲリラ豪雨と超高層ビルの因果関係は、報道等でその研究成果が伝えられており、長期計画においてもそれらに関連する視点を盛り込むことは重要であると思う。
- ・区営住宅の整備について、近隣他区における供給量とのバランスから検討するのではなく、区民ニーズを踏まえ取り組むべきである。
- ・補助 29 号線に交通量が集中することは明白であるが、被災時にどのような交通がどのくらい集中するのか検証することが重要である。
- ・防災の中心は、住宅の耐震化にあるのではないか。

■委員

- ・個々に必要な論点を盛り込んだがゆえに、全体としての整合性が十分に取られておらず、その結果、通読に苦勞する計画文案となっている。
- ・今後、財源の担保の問題、実施上の優先順位をつける必要性が生じる可能性がある。また、区民の要求レベルが高い計画となっているため、計画事業が実施可能なのか不安を覚える。

■副委員長

- ・多面的な観点から意見が出されたため、個別意見が相互に矛盾することもやむを得ない状況となっている。
- ・今後、計画で描いた品川の将来像を、具体的な事業計画に落とし込んでいくなかで、優先順位をつけることは必要となる。

■委員長

- ・今回の基本構想、長期基本計画の策定では、これまでもプロセスを重視し、様々なご意見をいただいていた。今後も、パブリックコメントを通じて、区民から広くご意見、

ご要望をいただき取りまとめていく予定である。

4. その他

5. 今後のスケジュールについて

- ・10月11日号の広報を通じてパブリックコメントを実施する。
- ・パブリックコメントを11月上旬に締め切り、ここでいただいた意見をもとに、さらに素案を修正する。12月2日の第8回委員会にて、パブリックコメントの結果を示すこととしたい。

6. 閉会

以上